

## 平成 28 年度 新学術領域研究（研究領域提案型） 審査結果の所見

研究領域名	ネオ・セルフの生成・機能・構造
領域代表者	松本 満（徳島大学・疾患酵素学研究センター・教授）
研究期間	平成 28 年度～平成 32 年度
科学研究費補助金審査部会における所見	<p>本研究領域は、免疫寛容や病原体に対する応答、恒常性の維持に極めて重要である免疫細胞による抗原認識機構について、ヒト HLA を例にして、これまでと異なる概念により統合的に解明し、難治性疾患の克服を目指す意欲的な提案である。過去の採択領域「HLA 進化と疾病」（平成 22～26 年度）によって、従来のセルフ、ノン・セルフの識別機構では説明できない多くの知見が得られたことを受け、本研究領域では「ネオ・セルフ」という新たな概念を創出し、今回の申請へと発展している。免疫細胞による抗原認識機構の研究は、わが国の研究者が大きな貢献をしてきた領域であり、これまでの研究基盤を次世代に受け継ぐとともに、研究分野の礎を構築することが期待される。新規概念の証明の為に最新のテクノロジーを結集することで、様々な学問分野において波及効果がある。特に機能解明と構造解明の優れた研究者が集い、各実験系が有機的に連携することで、免疫学の進歩に貢献するとともに、構造生物学など異分野の視点も踏まえた大きな展開が期待できる。総括班、国際活動支援班の活動内容も具体的に明確になっている。</p> <p>一方で、ネオ・セルフの概念をより明確化し、これをどのようにモデル化・定義するか、本研究領域全体として統一性を持って研究を進めることが望まれる。</p>